

青枯病抵抗性台木 ‘チャガマラン’ を育成しました

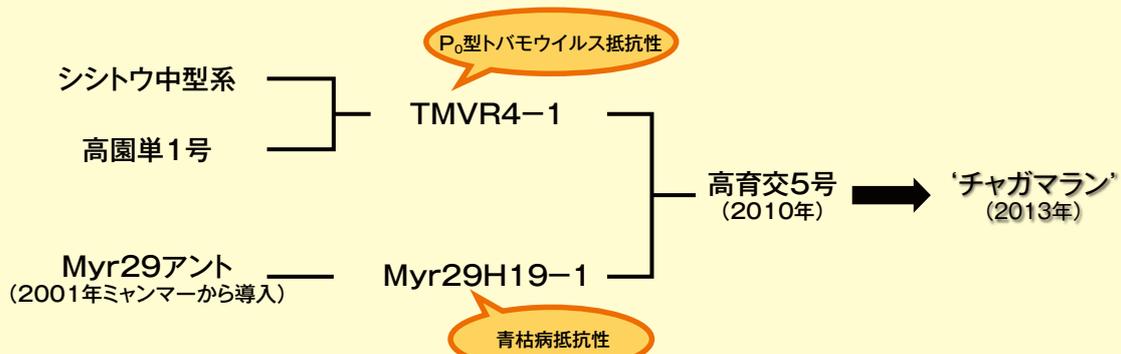


写真 左：自根、右：‘チャガマラン’接木
(高知県農業技術センター山間試験室提供)

表 ‘台助’と比較した‘チャガマラン’の主な特性

	台助	チャガマラン
草勢	中	中～やや短
草丈	中	やや短
節数	ほぼ同等	
果実特性	ほぼ同等	
収量性	ほぼ同等	
青枯病抵抗性	強	強
トバモウイルス抵抗性	L^3	L^{1a}

注) 2009～2010年農業技術センターでの調査値、穂木は‘トサミドリ’



育成経過

近年、ピーマンやシシトウ産地では青枯病が頻発して大きな問題になっています。青枯病は抵抗性台木に接木することで回避できますが、トバモウイルス L^{1a} 抵抗性遺伝子をもつ品種には適合する台木品種がありませんでした。そこで、これらに適合し青枯病とタバコモザイクウイルスなどのP₀型トバモウイルスに複合抵抗性をもつトウガラシ台木品種を育成しました。

2001年にミャンマーから導入した遺伝資源から青枯病抵抗性系統を選抜し、薬培養により「Myr29H19-1」を作出しました。そして、1986年に作出したP₀型トバモウイルス抵抗性系統の「TMVR4-1」と

「Myr29H19-1」を交配し、一代雑種である‘チャガマラン’を育成しました。

‘チャガマラン’は、青枯病抵抗性台木品種‘台助’（園芸植物育種研究所）と同程度の青枯病強度抵抗性を示します。また、トバモウイルス抵抗性遺伝子は L^{1a} なので、‘台助’を台木として利用できなかった‘つばきグリーン’や‘京波’など L^{1a} 遺伝子をもつシシトウ、ピーマンおよび小型パプリカにも接木できます。

‘チャガマラン’は青枯病に強い台木なので、土佐弁の「ちゃがまらん」（意味は壊れない、ダメにならない）から命名しました。

（園芸育種担当 細美祐子 088-863-4916）